

第2回生駒市総合計画審議会第一部会

第2回 生駒市総合計画審議会第一部会

1 日 時 平成27年8月4日（火）9：30～

2 場 所 生駒市役所 4階 403・404会議室

3 出席者

（委員） 中川部会長、森岡委員、永野委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課長補佐、

岡村企画政策課企画係長 松尾企画政策課係員

4 欠席者 中谷委員

5 議事内容

（1）各分野の検証

①No.143 財政

【中川部会長】 森岡委員の方から質問が出ておりますので、2枚の回答票をご覧ください。森岡委員の御質問と、それから右に回答があります。いかがですか、森岡委員。

【森岡委員】 実感度について、実態を反映しない部分についてどう掘り下げるかという問題があると前々から思っていました。難しい用語など、説明を補足する必要がある分野に限らずあるのではないかなと思います。

もう1点の「無駄を省く」という点で、無駄なくきちっと作ると歯車というのは回らないので、何が無駄なのかという前提等を示されていると思うのですが、ここでは表現されていませんのでそれを質問しました。回答内容については、大ざっぱ、こういうこといいんだとは思いますが、それぞれの担当部課全体については、何を無駄とするかという概念というのを明らかにしておく必要があるのではないかな、こう感じた次第です。

【中川部会長】 永野委員は何かございますか。

【永野委員】 補助費等の削減という取組がありましたよね。生駒市の財政を考えると仕方のないことなのかなと思うのですが、自治会に対してもそのよう

な補助費の削減を今までにされているかと思います。今後もそういうことをされるのであれば、現在担っている市からの業務等の削減ということの方も考慮してほしいなと思いました。

【中川部会長】 当分野については、進捗度判定が全員Aとなっていますが、審議会評価は進捗度Aで構いませんか。

(異議なし)

【中川部会長】 よろしいでしょうか。市はよくがんばっていると思います。数値的には随分改善されてきていますから、それについては異存ないということですね。

【森岡委員】 1つだけ構いませんか。市に対して補助金等の様々な申請をするときに、例えば領収のときの判と申請時の判が違ふとだめだとか、非常に細かい。その辺が行き過ぎるとやはり硬直化につながってしまうのではないかなという気がします。けれども、これは財政の取り組み方の1つのあらわれ方であると思いますし、それはそれで否定はしません。

【中川部会長】 要するに、コストダウンや経済性追求オンリーだけではなくて、市民側にコスト転嫁している危険性もあるという話ですよ。つまり、手続コストでは逆に市民側の負担が増えてしまうこともあるから、形式的なコストダウンに走るということばかりではなく、市民へのコスト転嫁を避けて、説明責任オンリーでなく、応答責任を重視するように切りかえてほしいというご意見だと思います。進捗度がAであることは認めるものの、時間・手間・物など、多大なストレスをかけている可能性があるから、今後は応答責任の方に行革の視点をもっと拡大してほしい。そういうことだと思います。

②No.144 職員・行政組織

【中川部会長】 行政評価のBと、審議会全員の評価がBで一致しておりますが、審議会としての進捗度はBでよろしいでしょうか。

(異議なし)

【中川部会長】 ご意見ありましたら、森岡委員からどうぞ。

【森岡委員】 特にありません。

【中川部会長】 永野委員、いかがでしょう。

【永野委員】 課の名前は、これほど高い頻度で変わるものなのではないでしょうか。覚えられないうちに変わってしまいます。「課の名前が変更になった際、市民としてはどこにどんなふうに見ればいいのか分からない」というのを周囲の方々から聞きました。私もよく高齢施策課の方にはお世話になっているのですが、頻繁に課名が変更される理由が分かりません。

【中川部会長】 先ほどの話に繋がりますが、市民サービスに近接している部局の名称変更は、市民へのコスト転嫁になります。だから、課名変更の際は慎重にしてほしいということですね。例えば、政策調整担当という課名が企画調整や総合調整に変わっても庁内で理解していればあまり支障はありませんが、例えば高齢福祉課が長寿社会政策課に変わって、また別の課名に変わってしまったら、「一体どうなっているんだ」と市民は混乱してしまうでしょう。

【永野委員】 高齢施策課になりましたと言われても、よく分からずうろうろしてしまいます。

【中川部会長】 進捗度に変更はないものの、市民サービスに近い部局ほど名称変更は慎重に行ってほしいという意見ですね。

それでは、これはBということで、今の参考意見。よろしいでしょうか。

③No. 461 バリアフリー

【中川部会長】 森岡委員と永野委員から質問票が出ております。審議会委員全員の進捗度がCとなっていますが、審議会としての評価はCでよろしいですか。

(異議なし)

【中川部会長】 それでは森岡委員、いかがでしょう。ユニットバスはご存知ですか？

【森岡委員】 いや、あまりよく分かりません。

疑問符がつくような取り組みしか報告として挙げられていないという部分が問題ではないかなと思います。私の実感から見れば、市民実感度も高過ぎるような気がします。

市民病院が開設されて、病院に向かうために、歩行が困難な方たちや

病気の方たちが最寄りの駅の東生駒で降車することになりますが、市全体が一丸となって東生駒駅周辺のバリアフリー化に取り組むべきではなかったのかと思います。実際は院建設課任せになってしまっているような気がしますし、病院の周辺だけのバリアフリー化になってしまっているような気がします。また、市立病院は市にとって非常に大きな取り組みであるにもかかわらず、地域全体・市民全体から見てより使いやすい病院となるような取り組みがなされていないのではないのでしょうか。

【中川部会長】 永野委員、いかがですか。

【永野委員】 市役所の駐車場からの階段は、スロープ等にする計画は全くないのでしょうか。

【事務局】 今回の改修でスロープにする予定です。ただし、今は階段が駐車場から真っすぐ伸びていますが、スロープになると行ってまた折り返すという一旦戻るような設計になってしまいます。車椅子の方などはスロープを御利用されますけれども、階段を問題なく使える方にとってはスロープを使うと距離が長くなってしまうのです。

【永野委員】 膝が悪いと、結構急なあの階段をのぼると辛いし、膝がすごく痛いのです。赤十字の関係で献血のときに階段近くの玄関でティッシュ配りをしているのですが、出入りする人を見ていたら、高齢者の方がとても大変そうに昇降されているので、何とかあの階段にスロープをつけるなりしていただけると嬉しいです。

【中川部会長】 総括すると、幹線道路と福祉のまちづくり条例に基づく届け出件数2点が指標になっているのですが、公共建造物におけるバリアフリー化の視点が抜けてしまう可能性があるということをご指摘いただきました。

そして、行政の役割分担というか、主要公共施設にアクセスするときには、その施設利用者に対応したアプローチのバリアフリー化の実施が重要になります。東生駒駅における病院へ行く方のための配慮をもう少し企業に働きかけてもいいのではないかと、ということであると思います。

あの周辺は確かに急傾斜です。エスカレーターもありませんでしたよね。

【永野委員】 はい。ありませんでした。

【中川部会長】 それと、東生駒駅や駅前のバス停から向こう側の道路へ行くために横断歩道を渡るとき、すごく苦勞するんです。雨天時ですと傘を差したままずっと待たないといけません。横断歩道から病院まで何メートルくらいの距離がありますか。

【森岡委員】 およそ300メートルから500メートルの間です。

【中川部会長】 結構長いですね。その間の道路は、全部市道ですか。

【事務局】 いいえ、東生駒のターミナルは近鉄の所有です。

【中川部会長】 前方は県道ですか。

【事務局】 県道ですね。東西は市道です。

【中川部会長】 降りて、またぐるっと回ってくる構造になっているので、利用者にとっては大変つらいですね。

【事務局】 例えば車椅子の場合ですと、駅に入ってホームまでは改札の東側から下っていく道がありますので、1方向ですが一応行けるということを近鉄から聞きました。

【中川部会長】 向こうにぐっと回っていますものね。

【事務局】 はい、そうです。今、その1方向のルートを確認していると。下のバス停の付近にエレベーターを設置してルートを2方向にするというのは今後の話ということで、なかなか折り合いがつかないというのが実情なのです。

【中川部会長】 今日言って一気に片づくような課題ではないのは理解します。ただ、病院へのアクセスステーションであるという位置づけは、近鉄にも認識してもらわねばならないと思います。

【森岡委員】 県道といえば、前々から公共交通活性化協議会の中でも話をさせてもらっています。健民グラウンドへ上がっていく道にほとんど歩道がないことなどについてです。その道が県道であるという理由で、改善されないうままになっています。歩行者の方が通行するとき、車道を歩かざるを得ない非常に危険な状況です。それに、溝にふたをした箇所を歩かねばならないので、でこぼこしていて大変歩きにくくなっています。

東生駒駅周辺の道路のバリアフリー化についても、県道であることなどが最大のネックになっていると思うのですが、それをどう改善してい

くかというのが行政の役割ではないでしょうか。

【中川部会長】 道路の整備計画は「延べ何キロ消化しました」というふうに取り組んでいらっしゃいますが、重点的に整備すべき箇所があると思うので、整備すべき場所はきちんと重点箇所に挙げてほしいということですね。病院のアクセス道路は、バリアフリーや雨天対応、それから傾斜対応など、各方面から点検して実施するというのは、今日ではほとんど常識なってきました。その部分に手を打っているのかな、ということです。

鉄道会社は、負担があるということに抵抗する場合がありますが、そこを突破していくのが役所の交渉力ですよ。場合によれば、「何分の1か負担金を出しますよ」というようなやり方もありますし。

通院経路というのは、やはりそのくらい考えないといけません。病気の方にとって通院は大変なことですし、それに、入院している方のお見舞いに行く家族も気分が重たいものなのです。すごく疲れます。そういう気持ちを配慮した設計を行うべきであると思います。重点地区・重点公共企業建造物であると考えて、方策を考えてくださったらと思います。

④No. 471 災害対策

【中川部会長】 森岡委員から質問票が出ており、それに対する回答票が来ておりますが、森岡委員、いかがでしょうか。

【森岡委員】 評価そのものは変わりません。取組を非常に進められていると思うので、行政の評価が低かったことや分野全体の進捗度が低いという記述をどうしてしたのか分からないなと思い、質問いたしました。取組状況を加味し、もっと積極的に評価すべきであると思っています。

【中川部会長】 永野委員、いかがですか。

【永野委員】 頑張って取組を進めていただいているので、特に意見はありません。

【中川部会長】 これも全員Bですね。では、審議会としての評価はBでよろしいですか。

(異議なし)

【中川部会長】 「市民実感度及び市民の役割分担50%を下回っており、より市民に実感として伝わる施策の実施が課題となっている」という自覚をきちんと持たれているようで

すね。

⑤No. 472 自主防災

【中川部会長】 審議会委員全員の進捗度はBということです。では、審議会としての評価はBでよろしいですか。

(異議なし)

【中川部会長】 森岡委員、いかがでしょう。

【森岡委員】 特にありません。

【中川部会長】 それでは、永野委員、いかがでしょうか。

【永野委員】 災害が起きたとき、市民は避難所に行きますよね。行政の方が避難所まで来てくださるまでに、日にちと時間がかかると思うんです。例えば、避難所の運営方法について、「誰かがリーダーシップをとってまとめていくというようなやり方がありますよ」というようなことを市民の皆さんに伝えていただくことが可能でしたら、それを伝えていただきたいなと思います。災害が起きて、避難所に集まったとき、その中に自治会長や自主防災会長、連合会の役員の方がいらして、その方々が運営をやって下さるのならいいですが、避難時にそういう方々が必ずいらっしゃるとは限らないので。

【中川部会長】 自主防災会では、そのような訓練を行わないのですか。

【永野委員】 行いませんね。消防署の方に来ていただいて消火訓練を行う等の訓練しかしていません。

【中川部会長】 今の時代の訓練は、例えば皆さんが施設に集まって、「それではただいまからリーダーとなる人を皆さんで選んでください。組織作りをしてください。そこから始まりますよ」という訓練です。

【永野委員】 そのような訓練が市民の皆さんに浸透していく方法はないものだろうかと思います。

【中川部会長】 それは、住民側の訓練なんです。例えば、行政の応援が届かない、自治会長が亡くなってしまった、あるいは民生委員の方が年配で来ることができない、といった状況に陥ったとき、今その避難所にいる人たちで組織づくりを行う訓練です。

【永野委員】 一人一人の市民がそれを知る方法が、まだ少々分かりにくいです。

【中川部会長】 それを自主防災会が行って、訓練を実施するんです。

【永野委員】 そうなのですね。

【森岡委員】 訓練時の避難設定や災害設定に混乱があるのだと思います。例えば風水害の場合ですと、市職員の方は前日から泊まり込んでいます。ですので、市民の方が避難所に到着したときに、すでに市職員の方が避難所にいらっしゃいます。訓練時に想定しにくいのは、いわゆる大規模地震が発生した場合です。市が先に動いてどうするかという設定ができないと言われているんですね。ですから、大規模地震のような突発的な災害のことをおっしゃっているのだと思います。

自分の家の周りの全ての家屋が潰れているとか、市内の複数箇所で火災が発生しているというような状況を想定しているのだと思います。その想定のとときに、避難所でどうしたらいいのかというのはその場その場で決めていかなければなりませんね。消防車も市役所も来ない、毛布も来ない、「こんなときにどうするの」と1つのパターンで対応するのはなくて、「こういう被災状況が発生する可能性がありますよ。皆さんでどう対処を行いますか」という柔軟さが必要になる想定訓練が必要であると思います。自主防災会の人たちが「こうしましょう」、「ああしましょう」、「このことは役割分担して決めましょう」という訓練もありますが、実際にはある意味役割分担のしようがないのです。

【中川部会長】 森岡委員のおっしゃるとおりで、水害や風害であれば、前もって市職員の方が避難所に来ているので、危険への対策も組織づくりも準備できるわけですね。しかし、大震災の場合はその時間がありません。役所も機能停止してしまいます。その時点で、住民があり合わせの状態です。どうするかという訓練が、今、必要になっています。

市の機能が再開されるまで、大災害の場合は3日かかります。風水害の場合ですと、市職員が配置についてもおよそ1時間から2時間かかります。「それまでの間我々市民はどうしたらいいのですか」と行政に尋ねて任せようとするのではなく、住民自身で避難所運営等を行っていくのです。それが住民自治です。「役所の人があるまでの間、どうしたら

いいんですか。指示してください」と役所に言っていることになりますので、本来は住民自治で解決せねばならないことを自治団体に責任を押しつけていることになるわけです。「今避難所にいる人で、あなたが一番元気そうだし、大変な状況にもなれてそうだから、ちょっとリーダーやってよ」という組織づくりでいいのです。

【事務局】 自主防災会でやられる訓練については、危機管理課が対応しています。こういった形でこういう訓練をしたいということをおっしゃっていただければ、訓練のお手伝いをいたします。

実際に地震等が発生した場合、何人かの市職員が避難所に向かいますが、体育館や学校でしたら、鍵を開けても大丈夫かどうか、余震で建物が倒れたら困りますので倒壊の危険がないかどうか等はチェックするのですが、やはり市の職員で全ての避難所の運営を行うのは非常に困難です。

【中川部会長】 不可能ですよ。私も阪神・淡路大震災の際は災害対策本部次長でしたが、全ての避難所を行政が運営するのは無理です。住民の方自身で運営を行っていくことが非常に重要となります。

⑥No.473 消防

【中川部会長】 まず森岡委員から御意見賜ります。

【森岡委員】 指標や具体的な事業についても、全て目標を達成しているようですね。ただ、「一人暮らし高齢者宅防火訪問の事業については、年々高齢化に伴う対象者の増加により、実施が困難な状況にある」とありますが、これは今後の課題であって、現在の評価を下げるものではないと思います。目標を全て達成しながら一生懸命取り組んでいるのに、Cに評価を下げるというのは、少し違うのではないかと感じます。ですから、そういう意味でBにすべきではないかということです。

【中川部会長】 永野委員はいかがですか。

【永野委員】 自主防災会等などに来ていただいて訓練などもしていただいていますし、市民対象に救急訓練もしていただいています。このように多岐に渡る取組で様々な成果を上げていらっしゃるだけでなく、広報・啓発も非

常に努力されていますので、CでなくてBにすべきだと私も思います。また、先ほど森岡委員がおっしゃったように、一人暮らし高齢者宅防火訪問事業の今後の課題は、今評価する必要はないのではないかと思います。

【中川部会長】 行政側の評価がCですが、謙虚に進捗度を判断されているようですね。当初私は進捗度をCとしましたが、各項目の達成状況等を踏まえてBに変更します。本日ご欠席の中谷委員はCですが、その他は全員Bとなりました。それでは、審議会の進捗度をBとして構いませんか。

(異議なし)

⑦No. 481 交通安全

【中川部会長】 森岡委員、どうぞ。

【森岡委員】 全体への交通安全アピールが低くなっており、これが取組が非常に遅れている結果につながっているのではないかと思います。幼稚園や保育園、それから小学校で交通安全講座を開催するなど、狭い部分での取組実施となってしまっています。自転車に対する道交法の改正もありましたけど、それに対しても何ら改善が見られませんし、改善しようというアピールというか、取組もなされていないのではないかなと感じます。ただ、行政は進捗度をCとされていますが、進捗度を下げようというのではなく、そのまま結構です。あくまでも意見を述べさせてもらいました。

【中川部会長】 ありがとうございます。永野委員、どうぞ。

【永野委員】 特に意見はないのですが、交通安全対策をあまり見かけないというのが感想です。なので、進捗度はCとしました。

【中川部会長】 当分野の進捗度は私もCとしましたが、今、森岡委員がおっしゃったように、道交法改正で自転車に対する取り締まりが厳しくなっていますよね。それに対応した施策の打ち方が見えない。むしろ、法が改正されたのだから、駅頭啓発等を実施してもいいのではないかと思います。幼稚園や保育園、小学校への啓発は非常に有効で、効き目もあります。しかし、やはり市を挙げて頑張って取組を行っているなというのを見せた

方がいいかもしれません。

【森岡委員】 交通に対して、非常に危機感を持っているのです。毎朝、交通安全の見守り活動で外に立っているのですが、子どもが横断歩道を歩いているときや信号が赤になっているにもかかわらず、自転車に乗った女性や高校生が平気で突っ込んでくるのを見ます。「危ないじゃないか」とか「信号無視だぞ」とか、たまに注意をするのですが、酷いときですと、子どもが横断歩道を渡っているところにさえも突っ込んできます。道交法が改正されたというのに、こんなことが何度もあって、非常に危険を感じていますね。学校や園などの限られた場所だけでなく、もっと広く一般市民に向けた取組が何かないのかなという気がします。

【中川部会長】 街頭で見えても、自転車に対する警察の取り締まりが厳しくなったことを実感しますね。自分が住んでいる町でも、四つ辻ごとに警官が自転車を一生懸命注意しているのを見かけます。大概捕まっているのは、女性と大学生か高校生くらいの学生ですね。

【事務局】 自転車で歩道を走っているケースが多いです。坂道が多い生駒の特殊性のためか、自転車の台数はそれほど多くなく、バイクが多くなっています。ただ、運転免許が必要なバイクよりも、講習を受けなくても運転できる自転車の方が交通マナーがよくない傾向があると思います。

【中川部会長】 駐輪場等の自転車の前かごに啓発のチラシを入れていくというのは、ありきたりな方法ですが、結構効き目がありますよ。自転車による死亡事故が出た場合、自動車と変わらない賠償が判例確立していますから。おばあさんが小学生の子どもに自転車ではねられて、事故当時から現在に至るまでの四年間意識不明になってしまった事故がありましたが、この間、一億円近い賠償金が確定しましたよね。子どもがやったことでは済まされません。

【森岡委員】 学生や成人した方の危険行為もありますが、逆に、お年寄りが横断歩道のない道路を平気で横断する光景も良く見かけますね。こういった危険な横断は大阪市内などの都市ではあまり見かけませんが、地方へ行くほど多いように感じます。

例えば、東生駒駅へ行こうとする人たちはどこかで道路を横断しなく

てはなりません。けれども、信号が変わるまでの時間が非常に長い。大変な待ち時間を要するという理由で、信号無視して渡る人がいますね。

【中川部会長】 いますよね。幼稚園や保育園、小学校等での啓発活動について非常に頑張って取り組んでいただいていますし、それを否定するものではないのですが、一般市民やご高齢の方たちに対する啓発をもう少し強化する必要があるでしょうね。

では、審議会の進捗度はCでよろしいですか。

(異議なし)

⑧No. 482 防犯・消費者保護

【中川部会長】 森岡委員、よろしくお願いします。

【森岡委員】 様々な自治会で、相当な数の防犯カメラを設置したという話をお聞きます。これは、住民の方たちの同意も得ないといけませんので、行政的には難しい事業だと思います。自治会なりが住民の合意を取りつけて、なおかつ相当な費用負担もしながら防犯カメラを設置しているというのが現実ではないでしょうか。評価そのものは、進捗度Cで変わりありません。

【中川部会長】 それでは、永野委員、いかがですか。

【永野委員】 詐欺などに関するチラシ配布等の啓発はよくしていただいているなど思う一方、なぜ自治会が負担しながら防犯カメラを設置しなければいけないのだろうとも思います。評価そのものは、私もCです。

【中川部会長】 ありがとうございます。全員Cですね。それでは、審議会の評価を進捗度Cとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

【中川部会長】 それでは、これで第2回第一部会を終了いたします。

— 了 —